

松阪三珍花

智子

目次

はじめに	1
一 松阪撫子について	3
松阪撫子の由来	
松阪撫子保存育成の経過	
松阪撫子の特徴	
二 松阪花菖蒲について	5
松阪花菖蒲の由来	
松阪花菖蒲保存育成の経過	
松阪花菖蒲の特徴	
松阪花菖蒲の名称について	
松阪花菖蒲鉢作りの要領	
松阪花菖蒲の品種について	
三 松阪菊について	13
大輪型松阪菊の由来	
大輪型松阪菊保存育成の経過	
大輪型松阪菊の特徴	
中輪型松阪菊の由来	
中輪型松阪菊保存育成の経過	
中輪型松阪菊の特徴	
中輪型松阪菊の仕立て方	
松阪菊の品種について	
四 松阪三珍花保存会のあゆみ	21
五 松阪三珍花関連の年表	25

はじめに

松阪三珍花とは、松阪が発祥の地である「松阪撫子・松阪花菖蒲・松阪菊」を松阪三珍花Ⅱ（別名「伊勢撫子・伊勢花菖蒲・伊勢菊」を伊勢三珍花）と言ひ、徳川時代から現在まで受け継がれてきた松阪の銘花です。

この度、松阪三珍花の由来と保存育成の経過を、公民館講座の講師としてお願いしました、松阪三珍花の研究者で、元中学校長・岡村金蔵先生、元三重大学教授・富野耕治先生、元大阪府立園芸高等学校長・池部和夫先生、元明野高校教諭・篠田晴二郎先生、初代会長・石田小壱先生方の資料を基に、自分なりに保存育成した経験を生かして、ここに資料としてまとめました。

ただ、何分にも古い時代の種々の記録からの集大成ですので、あくまでも完璧なものとは申せません。中には事実と相違した部分もあるかも知れませんが、前以てお断り致しておきます。

さらに「松阪三珍花保存会」も二十数年を経過しまして、会員も新しい方々が多くなられましたので、ここに「保存会のあゆみ」も一緒にご紹介していきたいと思ひます。

平成七年一月

松阪三珍花保存会

顧問 森 智 子



松阪撫子について

●松阪撫子の由来

松阪撫子が初めて作出されたのは

一八三〇年（天保一年）頃、松阪の殿町に住んでいた紀州藩士、
継松栄治氏（一八〇三年〜一八六六年）が、河原撫子の可憐な花に
魅せられて、多年栽培していたところ、氣候風土によるものか又は
天然異変によつてか、偶然にもその中に花卉の深く切れて縮れて長
く垂れ下がったものを発見し、之を育成改良の結果、現在の品種を
作出したと伝えられています。又一説には中国から輸入された石
竹（唐撫子）が氏により改良されたとの説もあり、何れにしても比
類無き珍品が現在に至るまで伝承されていることは何よりの幸せで
あります。

第一百九代光格天皇は、この松阪撫子を非常に愛好され、菊柄の
御紋を焼き付けた丹波焼きと、鶴の模様を置いた大和の赤焼の鉢を
わざわざ造らせてお植えになり、御觀賞遊ばされたとの由緒ある花
で、後に京都の宝鏡寺に御下賜になり、現在も御所撫子の呼び名で
愛培されております。

●松阪撫子保存育成の経過

その後、継松栄治氏から継松静氏・野口才吉氏らの手を経て、長
林堅三郎氏及び、中瀬常吉氏などに伝えられ、特に第三代目迄は門
外不出として守られて来ました。

一方明治の中頃より、津市の百華園主清水次郎氏、松阪新町の種
徳種苗店などによつて諸方面に取次ぎ販売がされていたようであり、

東京上野の堂本氏により、アメリカへも輸出販売されていた事実も
ありました。

一九一九年（大正八年）に宝鏡寺にて培養されていたものを、京
都の藪重雄氏が譲り受けて、三、四年実生を繰返し努力された結果、
大正十四年には、色彩も白、赤、桃、絞り等いずれも良く、花卉も
次第に伸びて一尺以上の長いのも多く栽培され、昭和二年頃には管
弁のものや、香気の強いものなどが出来たとの事です。

一九二八年（昭和三年）、新座町の長林堅三郎氏に嗣子が無く、
立野町の岡村金蔵氏が、松阪撫子を花菖蒲や菊も併せて三珍花を長
く保存して欲しいとの依頼を受けて譲り受け、その他松阪の栽培愛
好者服部栄次郎氏、富野耕治氏などにも逐次分譲されて来ました。

一九五二年（昭和二十七年）に三重県教育委員会は、伊勢花菖蒲
・伊勢菊と共に伊勢撫子（松阪撫子）を天然記念物に指定しました。

一九七〇年（昭和四十五年）に松阪市立公民館に於いて、松阪三
珍花講座を開設、翌年一月に「松阪三珍花の会」が発足し、岡村金
蔵氏、富野耕治氏から松阪撫子の苗を譲り受けると共に御指導を頂
く事になりました。昭和六十三年現在では会員三十名が、毎年優秀
な品種を選別して慎重に播種を繰返して努力した結果、花色も白、
桃、朱、藤、紅藤、赤、紅、ぼかしや刷毛目に入ったものなど多種
類に及び、花卉も縮れて長いものは十五糎から二十糎も垂れ下がる
ものがあり、優秀な品種を確保出来るようになり、鉢も丹波焼・常
滑焼の五寸鉢を使用して毎年五月下旬には松阪市社会教育センター
前広場にて百三十鉢程の展示会を開催して好評を得ております。

一九八四年（昭和五十九年）、東海農政局農政部長吉村喜久三氏（伊勢撫子研究家）が松阪を視察訪問されました。

一九八六年（昭和六十一年）、岡山県立農業試験場勤務の日原誠介氏より、育種研究の材料として種子の依頼を受けました。

一九九四年（平成六年）、加茂花菫蒲園研究員・一江豊一氏が来松され、松阪撫子展を観賞されました。加茂花菫蒲園では数年前からバイオテクノロジーを研究、伊勢撫子についてはコルヒチン処理により倍数体化し、四倍体系の新しい品種群を育成し、平成五年に栄養繁殖系の名称付き品種を通信販売されました。その品種の特徴は葉がやや幅広く厚みがあり、茎が太く剛直で花も大柄で作りやすいとの事ですが、優美を誇る古典植物としては如何なものか・・・と考えさせられます。

●松阪撫子の特徴

- 一、草立ち柔軟で、茎が細く、葉は黄緑色で細長い。
- 二、花卉は一重の五く六弁で、肩張らず、鬚長く柔らかく、縮れて垂れ下がる。長いものは十五く二十糎。
- 三、色彩はすべて単色を貴び、花卉の基部に蛇の目が無い。
- 四、花色は、白、桃、朱、藤、紅、赤など。
- 五、花卉は絹糸が絡んだようになってるので、自力では開花しにくい。咲きかけの時に、つま楊枝などで一本ずつ丁寧にはぐしてやる。

現在では、播種による栽培を繰返してまいりますので、固定した品種の保存は難しいのですが、次に参考までに、岡村氏、富野氏の記録に残る品種の中から代表的なものを挙げてみました。

友白髪	青白色	藤袴	藤色緋	福白髪	純白色
五十鈴川	純白色	春雨	淡刷雪	吹雪	雪白色
新天地	白色	数島	紅色	二見之浦	淡紅白斑
布引滝	黄白色	藤の友	藤色	夕霧	淡紅色
白雲	純白色	紅流錦	赤刷雪	猩々髪	濃紅色
偲月	淡桜色	紅流	美紅色	雨竜	洋紅刷雪
小桜威	桃色	高尾	濃紅色	花猩々	緋紅色
春霞	淡紅色	春景色	淡紅色	緋の袴	緋赤色
初霞	桜色	初風	白髮紅刷雪	紅千鳥	淡紅色
曙	桜色	朧月	白地底桃暈	糸霞	極淡紅色
春日野	淡黄色	漣	淡紅白絞	浦霞	淡紅色
神風	桜暈色	竜宮	洋紅色	白翁	白色
虹の跡	淡桜色筋入	初日出	濃紅色		
初春	桜色斑入	京鹿子	本紅髮白學校		

松阪花菖蒲について

●松阪花菖蒲の由来

松阪花菖蒲が初めて作出されたのは、

一七七六年から一八五九年（安永五年～安政六年）の間、松阪の殿町に住んでいた徳川紀州藩士、吉井定五郎氏に依つてであります。

野生の花菖蒲から直接栽培改良されたものか、或は栽培化されていた花菖蒲を基に改良されたものかは現在知る事が出来ませんが、

伝えられるところによれば、吉井氏が最初に作出された花は「伊勢の浦」と呼び、銘花だったということです。大正末期までは残つていたとの事ですが、すでに絶えて現在では見ることが出来ません。

その他にも永年苦心培養の結果、百余種の品種を作出されたものことですが、肝心の花菖蒲に関する資料が殆ど無く、現在では詳しく調べるすべもなく残念でなりません。

●松阪花菖蒲保存育成の経過

一八五九年（安政六年）、吉井氏八十三才にて歿せられ、その後は嗣子の吉井吉之丞氏が亡父の遺志をついで品種改良に努め、多くの品種を作出されました。

その後、殿町の野口才吉氏、新座町の長林堅三郎氏などに分譲し、いずれも門外不出として秘蔵されていましたが、それぞれ晩年から死後にも、家族に栽培の意志が無く、松阪近在の愛好者たちのもとの保護されて来ました。

一九〇七年（明治四十年）に、「改正伊勢玉蟬花名鑑」として、松阪の長林堅三郎、津市の廣田稲雄、同竹島定吉ら三氏の手によつ

て、百五十五種（本年新花二十種含む）の品名を記載された古書類が、近年市内の家から発見され、松阪市立歴史民俗資料館に収納されました。

一九一〇年（明治四十三年）、野口才吉氏死去により、氏所有のものは幸いその親戚に当る久保町の乾達二氏が花菖蒲愛好家だったので、花菖蒲の古文書とともに全部引き継いで愛育されて来ました。他にも服部栄次郎氏、津の井関謙次郎氏、吉川万吉氏などが松阪系の改良、栽培に努められました。

一九二二年（大正十一年）、乾氏死去により、遺品として夫人より青木清次郎氏が、全部引き継いで保存されて来ました。

昭和の戦中・戦後の米の作付け統制、供出制度などで、食糧事情の厳しい中を、ひたすら品種保存に情熱を傾けられた青木清次郎氏の努力は高く評価されるべきであります。長い間品種不明のままて栽培されていましたが、たまたま乾氏の古文書に花菖蒲の古花銘が記載されていたとのことで、青木氏がそれと対照して品種を決定し、現在の名称「松阪司」「伊勢の誉」などと、数十種に名付けられたと言うことでありますが、残念ながらその古文書も今は無くなっています。

一九二八年（昭和三年）長林氏は、立野町の岡村金蔵氏に「狩衣・大和衣・村雨」など十一種を、松阪撫子・松阪菊の苗と共に、この松阪三珍花を永く保存して欲しい旨を依頼して譲り渡しました。そして長林氏は昭和十二年に死去されました。

一九四一年（昭和十六年）、津の吉川万吉氏（井関謙次郎氏の甥）の栽培品種、百余種の記録が残されています。

一九五二年（昭和二十七年）、三重県教育委員会は、伊勢花菖蒲

を天然記念物に指定し、更に昭和四十五年には花菖蒲を県花に決定しました。県民の象徴花として選ばれたのは、その古い伝統に基づくものと思われます。

一九七〇年（昭和四十五年）、松阪市は青木氏宅の松阪花菖蒲を市の天然記念物に指定して頌徳碑を建立し、松阪市長・吉田逸郎の名で碑文にその功績を讃えています。

同年、松阪市立公民館に於いて、松阪三珍花講座を開設、花菖蒲の講師に岡村金蔵氏、青木清次郎氏を依頼しました。

一九七一年（昭和四十六年）一月、松阪三珍花の会が発足し、初代会長に石田小吉氏を依頼しました。そして石田会長が青木氏から松阪花菖蒲の保存依頼も兼ねて二十数品種を譲り受けました。

一九七二年（昭和四十七年）三月九日、青木氏死去により、その後嗣子の青木良平氏が遺志を継いで現在立派に保存されています。その他にも甥の石津町の中尾利男氏と新町の森貞二氏宅にも保存されています。

一九八八年（昭和六十三年）には、石田会長が昭和五十六年に引退された時引き継いだのに加え、青木良平氏、森貞二氏、大阪の山口武氏、三重花菖蒲会員の方などからも譲り受け、又新花は深長町の深見昇氏から数十種譲り受け、現在保存会としては、古花五十種余、新花百種程となり、会員が保存育成に励み、毎年六月中旬に松阪市社会教育センター前広場にて百鉢程の展示会を開催しています。

一九八八年（昭和六十二年）、宮崎大学農業学部育種研究室・薮谷勤教授から、松阪花菖蒲の異数体研究のために株の依頼があり、古花十七品種を分譲しました。

一九九三年（平成五年）、神奈川県三池園芸研究所の所長・三池

延和氏が、日本花菖蒲協会の資料作りのため、写真撮影に松阪へ来訪、展示会などを観賞されました。

●松阪花菖蒲の特徴

- 一、花は三英咲きで、花弁は縮緬地の薄弁で大きく発達し、互いに相重なって良く垂れるものを優品とする。
- 二、内弁は立ち鉾となり、変化を添える。
- 三、花芯の先端は鶏冠状の薄片となり、縁の辺深く切れ込むものが多く、端正なる花姿に優艶な趣を添える。
- 四、花茎は太く短くて分岐せず、葉とは殆ど同じ高さに伸び、開花期における花と葉の調和が良くとれている。
- 五、葉は厚く広巾で剣状に直立し、葉面に数条の縦筋がある。
- 六、花色は全般的に純粹で明るいものが多く、開花後、時間の経過と共に、花型・色彩に変化を来たす。
- 七、普通は染色体が24であるが、本種は25という異数体の品種が多く、そのため結実し難いものもある。
- 八、全体的にやや弱く繁殖力が乏しい。

●松阪花菖蒲の名称について

松阪花菖蒲の名称については、色々の意見が出されて来ましたが、容易に結論を見出せず迷って来ました。

富野氏の説は「伊勢花菖蒲には、染色体が異数体のものと異数体でないものがあるが、いずれも同じ伊勢系の品種であつて、松阪花菖蒲と区別する必要が無い。

青木氏の説は「伊勢花菖蒲と松阪花菖蒲は根本的に品種が異なり、

染色体が異数体のものだけが松阪花菖蒲である。

岡村氏の説は伊勢の国・松阪が発祥の花であるから、松阪三珍花、松阪花菖蒲、或は伊勢三珍花、伊勢花菖蒲とも言われて来た。

池部氏の説は「いずれにしても『松阪花菖蒲』の事を『松阪菖蒲』とよく言われるが、これは誤りで必ず花を付けて『松阪花菖蒲』と呼んで欲しい。

松阪市としては『伊勢花菖蒲が、既に三重県特別天然記念物に指定されているので、単に染色体が異数体であるという事だけでは、松阪花菖蒲を市の天然記念物に指定するについては問題があり、伊勢系の中の一変種と見るのが妥当であるとの学術的見地からの指摘もあったようであるが、保存に尽力された青木氏の熱意を認め、また品種の絶滅を恐れて、指定したわけである。

こうした事から「三珍花保存会」としては、そのいずれを取るべきかと随分迷いましたが、どれが正しいのかという結論は出ないと思います。どれを取ってみても間違いではないと思われませんが、結局三珍花との出会いが岡村氏のおかげですので、岡村氏の説を取って「松阪三珍花」の名称は勿論、花菖蒲にしても「松阪花菖蒲」別名「伊勢花菖蒲」を取ったのです。松阪市にとっても結果的にはこれでよかったと思っております。



昭和45年6月 岡村先生・中井先生と青木花菖蒲園にて

● 松阪花菖蒲鉢作りの要領

花菖蒲の葉には

表の面に一本
裏の面に二本



の中筋がある

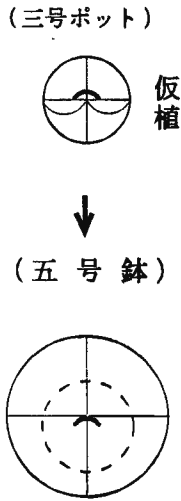


植付の時期（毎年行う）

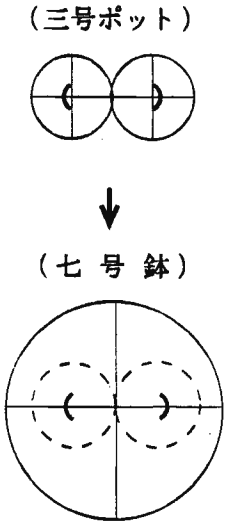
仮植：六月下旬から七月上旬まで
定植：九月中旬から九月下旬まで

鉢の植込みに付いて

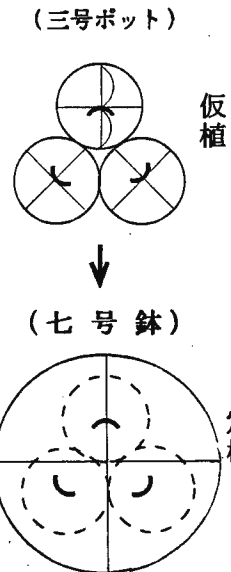
一、一本植の場合



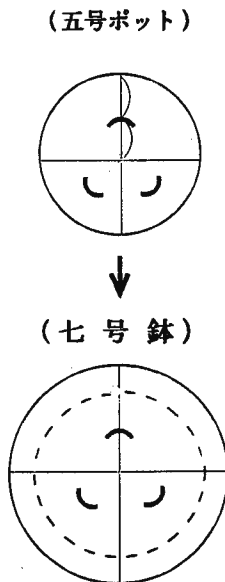
二、二本植の場合



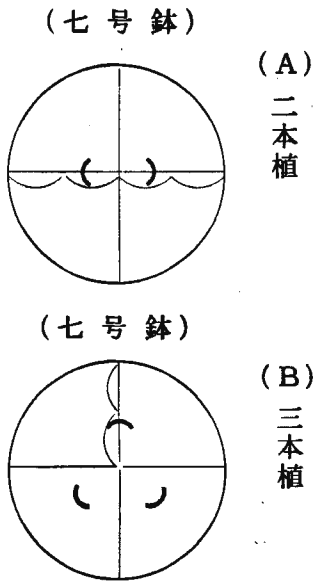
三、三本植の場合 (A)



四、三本植の場合 (B)



五、直接本植の場合



松阪花菖蒲の品種について

昭和六十三年六月現在

松阪三珍花保存会云所有

番号	古花の品種	花	弁	心	鉢	作出年代	その他
一	松阪司	紅紫色地に白の太筋がとぎれがちに走り厚弁の縮緬地でよく垂れる。花の展開に独特のくせがあり、異様な咲きぶりが楽しい。	・白地に紅紫の覆輪 ・白地で蜘蛛手が発達	・白地に紅紫の覆輪 ・白地で蜘蛛手が発達	・白地に紅紫の覆輪 ・白地で蜘蛛手が発達	一九〇四年以前 (徳川・明治)	異数体 遅咲き
二	伊勢の誉	青紫色地に白の太筋がとぎれがちに走り厚弁の縮緬地でよく垂れる。花の展開に独特のくせがあり、異様な咲きぶりが楽しい。	・白地に青紫の覆輪 ・白地で蜘蛛手が発達	・白地に青紫の覆輪 ・白地で蜘蛛手が発達	・白地に青紫の覆輪 ・白地で蜘蛛手が発達	〃	〃
三	神路の雪	純白色で長味を帯び、おっとりとした姿でよく垂れる。神苑の清浄さが象徴されているかのように気高い感じ。	・純白色	・純白色	・純白色	〃	中咲き
四	月宮殿	白地に薄青ぼかしで、整った姿がとても美しい。	・白地に藤紫の糸覆輪 ・白地に薄青ぼかし	・白地に藤紫の糸覆輪 ・白地に薄青ぼかし	・白地に藤紫の糸覆輪 ・白地に薄青ぼかし	〃	異数体 早咲き
五	四海波A	白地に赤紫の筋とぼかしが入り、縮緬地で波状に大きく垂れる。とても豪華な感じ。	・赤紫色に白の覆輪 ・薄い赤紫色	・赤紫色に白の覆輪 ・薄い赤紫色	・赤紫色に白の覆輪 ・薄い赤紫色	〃	中咲き
六	四海波B	藍単地に白筋が入り、縮緬地で弁薄く柔らかい感じの美しい花。	・藍単色	・藍単色	・藍単色	〃	早咲き
七	涼風	極く淡い単青色で、弁元白抜きの縮緬地でよく垂れる。夏向きで涼味をそそるような花。	・淡い単青色	・淡い単青色	・淡い単青色	〃	異数体 中咲き
八	夏姿	淡い藤紫色で、弁元白抜きの縮緬地でおおらかに垂れ綺麗な花。	・淡い藤紫色	・淡い藤紫色	・淡い藤紫色	〃	異数体 中咲き
九	宝玉	藤桃色で白糸覆輪が入り、よく垂れて色彩に魅力があり貴重な存在。	・明るい藤色	・明るい藤色	・明るい藤色	〃	異数体 早咲き
一〇	瑞宝	紅紫色に濃い細筋が入り、吹かけ絞りでおおらかに咲く。	・濃い紅紫に白覆輪 ・濃い紅紫色	・濃い紅紫に白覆輪 ・濃い紅紫色	・濃い紅紫に白覆輪 ・濃い紅紫色	〃	異数体 中咲き
一一	蓬萊山	紫地に白の小絞りと、純紫無地との二型があり重厚な感じでよく垂れる。芽条変異として珍しく貴重な存在。	・花弁と同じ色	・花弁と同じ色	・花弁と同じ色	〃	異数体 遅咲き
一二	藤袴	藤紫色で弁薄く縮緬地でよく垂れる。作りやすい品種。	・藤紫色	・藤紫色	・藤紫色	〃	早咲き
一三	真如の月	青紫色で瑠璃紺とも言われる目のさめるような美しい色の花。	・青紫色	・青紫色	・青紫色	〃	中咲き
一四	薄化粧	薄桃地に薄紅筋が入り、いかにも薄化粧をした感じが出ていて可愛い花。	・薄桃色	・薄桃色	・薄桃色	〃	異数体 早咲き

一五	御代の春A	白地に極く淡い紅の糸覆輪で、楚々たる佳人の面影を偲ぶにふさわしい見事な花。	・白地に淡い紅の覆輪 ・白地に淡い紅	〃	異数体 中咲き
一六	御代の春B	薄藤朧地に少し濃い筋が入る。おとなしい感じの花。	・薄藤朧地に濃い筋 ・薄い藤朧色	〃	中咲き
一七	瑞兆	白地に藍筋が入り全体に薄く藍がかかる。弁厚くどっしりした感じ。	・濃い藍色に白覆輪 ・薄藍色	〃	中咲き
一八	桃の里	純桃色でとても美しく、少し白の斑が入り可憐な感じのする花。	・純桃色	〃	異数体 中咲き
一九	京舞子	白地に紅紫の砂子絞りで、弁元白抜けで中心に三本の青筋がかすかに入る。とても人気がある。	・濃紅紫の砂子に白の糸覆輪 ・紅紫の砂子	〃	異数体 中咲き
二〇	紅孔雀	紅紫色のビロード地で、丸弁で互いによく重なって大きく垂れる。	・紅紫地に白筋が入る ・紅紫色	〃	早咲き
二一	残月	雪白色にかすかに薄紅がかかり、ひだ多くよく垂れる。	・白地に薄紅がかかる ・白色	〃	中咲き
二二	旭丸	赤紫色の大輪で、丸弁となり互いによく重なって大きく垂れる。	・赤紫色	〃	早咲き
二三	紫雲台	朧紫色でよく重なって大きく垂れる。	・朧紫色	〃	中咲き
二四	不知火	藤紅色で弁やや薄く淡い感じで群生する。葉が少し黄味を帯びて垂れやすい。	・藤紅色	〃	早咲き
二五	乙女	薄紅色で基部がやや濃い。角張らずに乙女のようにつつましく垂れる。	・薄紅色	〃	早咲き
二六	羽衣舞	紫色で弁質柔らかく、ねじれたりする事もある。ひだ多く互いによく重なって垂れる。	・赤紫の覆輪 ・赤紫色	〃	遅咲き
二七	紫式部	濃い紫色で狂い咲きとなる。	・濃い紫色	〃	中咲き
二八	白鶴	雪白色で、ときに弁先に薄い水色がかかる。花の垂れは少ないがさきかけに特徴があり、楽しい花。	・雪白色	〃	異数体 早咲き
二九	桂男	純白色で柔らかみのある咲き方で作りやすい。	・純白色	〃	中咲き

番号	古花の品種	花	弁	心	鉢	作出年代	その他
三〇	龍巻	濃い青紫色で、花全体が巻きあがる感じで大きく垂れる。特異花型で見ごたえのある素晴らしい花。				一九〇四年以前 (徳川・明治)	異数体 中咲き
三一	村雨	紫地に白筋が入る、目のさめるような色の花。					中咲き
三二	夕霧	藤紫色に濃い筋が少し入る。弁質厚く垂れにくい。比較的作りやすい。					早咲き
三三	藤波	青紫色の縮緬地のひだ多く互いに重なり大きく垂れる。花の見事な割には作りやすい。					早咲き
三四	衆指誉	白地に紅紫の筋が入り砂子絞りで美しい。やや厚弁でしつかりした感じで作りやすい。					中咲き
三五	曙	白地に紅砂子の吹かけぼかしで、全体にほのぼのとしたものが感じられる。					中咲き
三六	羽衣	紅紫地に白の小筋が入り、丸肩となり互によく重なって垂れる。					中咲き
三七	大和衣	白地に藤紫の筋が入り縮緬地で大きく垂れる。全体の色彩が調和している。					中咲き
三八	狩衣	薄紫色の縮緬地で互いに重なって大きく垂れる。					中咲き
三九	銀沙灘	白地に薄青ぼかしで、白筋が入る。涼味をそそる感じでゆったりと大きく垂れる。					中咲き
四〇	早乙女	極く薄い桃色で、よく垂れる。いかにも無垢な感じを持つ美しい花。高性で作りやすい。					中咲き
四一	十六夜	薄紅紫色でおおらかに垂れる。花は小さいが群生して作りやすい。					早咲き
四二	五節の舞	薄紫地に紫の細筋が入り、大きく波を打って垂れる。色彩の調和がよい。					中咲き
四三	白雲	純白色で大空に浮ぶ白雲を連想させる。高性で強い。					早咲き

四四	伊勢の海	白地に紫の濃淡の吹き掛け絞りが入る。縮緬地でよく垂れる。	・白地に紫の絞り	・	中咲き
四五	酒中花	白地に赤紫の砂子絞りで美しく、大きく垂れる。	・赤紫色に白の糸覆輪 ・赤紫色	・	中咲き
四六	涼波	白地に淡い藤色がかかり、濃い藤の筋が入る。	・淡い藤色	・	中咲き
四七	青柳	白地に藍筋入り砂子の縮緬地で大きく垂れる。	・藤紫に紫筋入り	・	中咲き
四八	雪月花	明るい藤紫色の絞りとなり、やや縮緬状となる。	・藤紫色	一九〇七年 明治四十年	中咲き
四九	落葉衣	白地に薄青色の吹かけとなり垂れ咲きで、さわやかな感じの花。	・白地に紫の糸覆輪 ・白地に紫がかかる ・白地に薄桃がかかる	・	異数体 中咲き
五〇	五十鈴川	白地に薄く水色がかかる。高性で作りやすい。	・白地に薄桃がかかる	・	中咲き
五一	桜狩	桃色に白の覆輪が入る。桜花の満開を思わせるような可愛い花。	・桃色	一九三〇年以前 (昭和五年)	中咲き
五二	春雨	明るい感じの紫色で、基部がややぼかしとなる。	・藤紫色	・	遅咲き
五三	君が代	白地に紅砂子がかかる。	・白地に紅砂子	・	中咲き
五四	薄霞	薄青地に白の斑が入る。大きく波を打って垂れる。	・薄青色	・	遅咲き
五五	花司	桃色に紫紅色の筋が入り、丸弁でよく垂れる。	・薄桃色	・	中咲き
五六	朝日空	紅紫地に白い筋が入る。特に早咲きで、群生して作りやすい品種。	・薄藤紅紫ぼかし	・	早咲き
五七	浪花津	美しい桃色に細い紅筋が入る。高性で作りやすい。	・桃色	一九四〇年以前 (昭和十五年)	中咲き
五八	籬の友	薄い青紫地に濃い紫の筋が入る。よく目立つ花である。	・濃い青紫色で垂れる ・濃い青紫色	・	早咲き

松阪菊について

松阪菊は、嵯峨菊・江戸菊・肥後菊と共に古い歴史を持つことから一般に「古典菊」と呼ばれています。

松阪菊には二系統があつて、俗に大輪型と、中輪型に分けられ、その由来を異にしています。一般に伊勢菊と言われているのは中輪菊のことで、松阪糸菊と言われた大輪菊の有ることはあまり知られていません。

●大輪型松阪菊の由来

大輪型松阪菊は、元松阪糸菊とも言われていたもので、初めて作出されたのは、一八三〇年頃、松阪殿町に住んでいた菊愛好家の木下藤八氏に依るもので、毎年実生により幾多の新品種を作出栽培して、開花期には、江州から京都方面に迄も、この菊を墨塗りの入れ子の箱に収め、その花を見本として、菊苗の販売をも行われたと伝えられています。

●大輪型松阪菊保存育成の経過

その後、松阪中町の脇田藤助氏がこの菊を譲り受け、熱心に栽培されてきましたが、一八九三年（明治二十六年）三月二十九日の松阪大火の時、大部分を焼失してしまつて多年の丹精と苦心も文字通り灰燼に帰してしまいました。

しかしその当時、他にも本種の栽培者があり、中でも特に松阪三珍花の愛好家で、新座町の長林堅三郎氏や津市の坪内為三郎氏などが栽培されていたので本種の全滅を免れ、丹精の甲斐あつてこの菊

だけの「菊花展覧会」を盛大に催された程でありました。

しかし、明治の初期から中期迄がこの菊の全盛期で、その後は華やかな厚物菊や濃艶な管物菊などが栽培されるようになって、松阪菊は繊細で、弱い弱な性質のため少数を残すのみとなりました。

一九二二年（大正十年）九月、宮内省から松阪菊栽培状況について松阪へ視察に来られた時には、優秀なものが殆ど減少してしましたが、幸い日野町の前川吉次郎氏、津の宇野常吉氏、坪内為三郎氏らによつて辛うじて保護されており、特に前川氏が確実な大輪菊十数品種（花霞・糸の海・高麗錦・雲井・玉の興・竜田錦・絲無双・嬉野・山彦など）を栽培されていたことが確認され、その時の書類に記録されています。

一九七一年（昭和四十六年）一月、「松阪三珍花の会」が発足した時、三重大学教授富野耕治氏から大輪菊古花として「美香」「糸錦」の苗を譲り受けて栽培し、毎年十一月中旬には、松阪市社会教育センター前広場にて中輪菊と併せて展示会を開催しています。

一九八五年（昭和六十年）には、会員の努力によつて実生から新品種「松阪紅夏」「松阪茜」「松阪糸紫」が作出されました。

●大輪型松阪菊の特徴

- 一、花卉は針管、或は細管弁で長さ十五糎内外。
- 二、弁先は玉巻なしの延切弁で露心型。
- 三、咲きかけが独特の渦巻状で、ほぐれるように開花する。
- 四、葉は長葉で深切れのものが多く、茎も概して細い。
- 五、優雅で繊細なため、全体に弱い。
- 六、花期は普通菊よりもやや遅咲き。

●中輪型松阪菊の由来

一四二二年（応永十九年）、南朝の後胤小倉王が京都嵯峨村龜山御殿に居られた頃、伊勢の国司・北畠光雅氏がこの種を拝領して伊勢の国に持ち帰り、培養の結果本種が作り出されたと言う説と、

また、京の都より差し遣わされた伊勢神宮の斎女（いつきめ）たちが、折々の手すさびに京から取り寄せて植えたのが、伊勢の風土に馴れて次第に改良されたものだと言う説もありますが、いずれにせよ原種の嵯峨菊が、松阪の気候風土と栽培者の研究努力により現在のような見事な品種が作出されたものと推定されます。

●中輪型松阪菊保存育成の経過

一八四五年（弘化二年）仁孝天皇の御代には、前記の木下藤八氏が実生で以て多くの新花を作出されました。

その後、松阪、伊賀地方に於いて多く栽培され、一八六七年（慶応三年）頃から毎年開花期には津城内へ納められて、城主藤堂氏の庇護のもとに観菊の宴をもたれ、特にこの菊を愛し観賞されたとのことです。

明治、大正の頃には、宮内省の観菊会に松阪菊の花壇が組まれて観賞され、伊勢地方に於いては、松阪の長林堅三郎氏、前川吉次郎氏、津の宇野常吉氏、坪内為三郎氏などの熱心な愛好者が出て栽培が続けられて来ました。

大正末期から昭和にかけて、わが国に於ける菊の科学研究に大きな業績を残された、丹羽鼎三博士が三重県高等農林学校在職中に、松阪菊の品種を松阪や津から集めて実生栽培を重ねて優良品種多数を選出され、改良に努力された結果沢山の品種を作出され、三重号

なる名称で発表されていたので、大輪型松阪菊と区別するため中輪型を伊勢菊と名付けられたのではないかと思えます。

一九二八年（昭和三年）十一月、天皇・皇后両陛下伊勢神宮御参拝の砌、行在所に丹羽氏が奉納した本種を特に御嘉賞遊ばされたことと、翌年五月には、本種四十五種を特に選んで宮中に献上せられ、毎年新宿御苑で栽培され開花期には花壇が組まれて一般の参観にも供されております。

戦時中の混乱によってこれらの品種は殆ど散逸し、戦後は見る影も無くなっていましたが、松阪の愛培家で殿町の中井喜平氏、立野町の岡村金蔵氏などの手によって僅か乍ら残存されていました。

又三重大学にては、郷土の自然文化財復興保存のため、松阪附近をはじめ、新宿御苑、明石公園などから残存の品種を集め、郷土の文化財として、富野教授を中心に、これらの品種の保存と、新品種の育成に苦心を重ねられた結果、昭和二十六年十一月、陛下の三重県御巡幸にあたり、大学構内に菊花壇を作り御覧にいらしたとのことです。

一九五二年（昭和二十七年）、三重県教育委員会は、中輪菊を伊勢菊として天然記念物に指定しました。

一九七〇年（昭和四十五年）、松阪市立公民館に於いて、郷土植物の復興のため園芸講座を開設、菊の講師に岡村金蔵氏と中井喜平氏を依頼して、翌年一月に「松阪三珍花の会」が発足し、菊苗を三重大学や明野高校から譲り受けてご指導を頂く事になりました。

その後、中井喜平氏が育成しておられた品種（初霜、桃山、猩々、花霞、初姿など十品種）を、幸いにして小黒田町の小林孚氏が引き継いで保存しておられたのを、昭和六十三年に全部譲り受け名実共

に本種の育成に努めた結果、漸く昔の面影を取り戻すことが出来、この歴史ある優雅な古典菊として毎年十一月には公民館の協力を得て松阪市社会教育センター前広場にて大輪菊と併せて百五十鉢程の盛大な展示会を開催しております。

一九八三年（昭和五十八年）、東京農業大学図書館職員・杉本秀健氏が来訪されて、松阪菊の觀賞をして行かれ、翌年三月、同大学図書館より「新宿御苑に於ける和菊の伝統的栽培法写真図説」五巻が発行されました。

一九八五年（昭和六十年）、世界文化社から十一月に発行された「家庭画報」別冊「茶花曆」シリーズ（七）に、古典菊として嵯峨菊、江戸菊、肥後菊と共に伊勢菊十九品種の写真が詳しい説明付きで掲載されました。

一九八六年（昭和六十一年）、横浜菊花会会長・内田考一氏より依頼を受け、菊苗十種を差し上げました。横浜の銘園「三溪園」にて毎年開催されている菊花展に、「古典菊の部」として伊勢菊・嵯峨菊・肥後菊の籌仕立てを展示しているとの事です。

一九八七年（昭和六十二年）、「名古屋城菊花大会四十周年記念」事業として、全国有名菊特別花壇展に古典菊として参加の依頼を受け、会員の二十四鉢を出品しました。

一九八八年（昭和六十二年）、「全国都市緑化なごやフェア」全国有名菊花壇展にも依頼を受け、三十二鉢を名城公園へ出品しました。

同年、NHK「趣味の園芸」十一月号「伝統の菊を訪ねて」のコーナーに、肥後菊・嵯峨菊・江戸菊と共に伊勢菊の珍妙な花の芸が優雅な世界に誘うとして七枚の写真入りで紹介されました。

一九九四年（平成六年）、宮崎陽華会副会長・全日本菊花連盟公認審査員・上村遙氏が、「菊作り名人奥義」全三巻を発刊されるに当り、松阪菊の取材と写真撮影のため来松され、松阪菊展も觀賞して行かれました。

●中輪型松阪菊の特徴

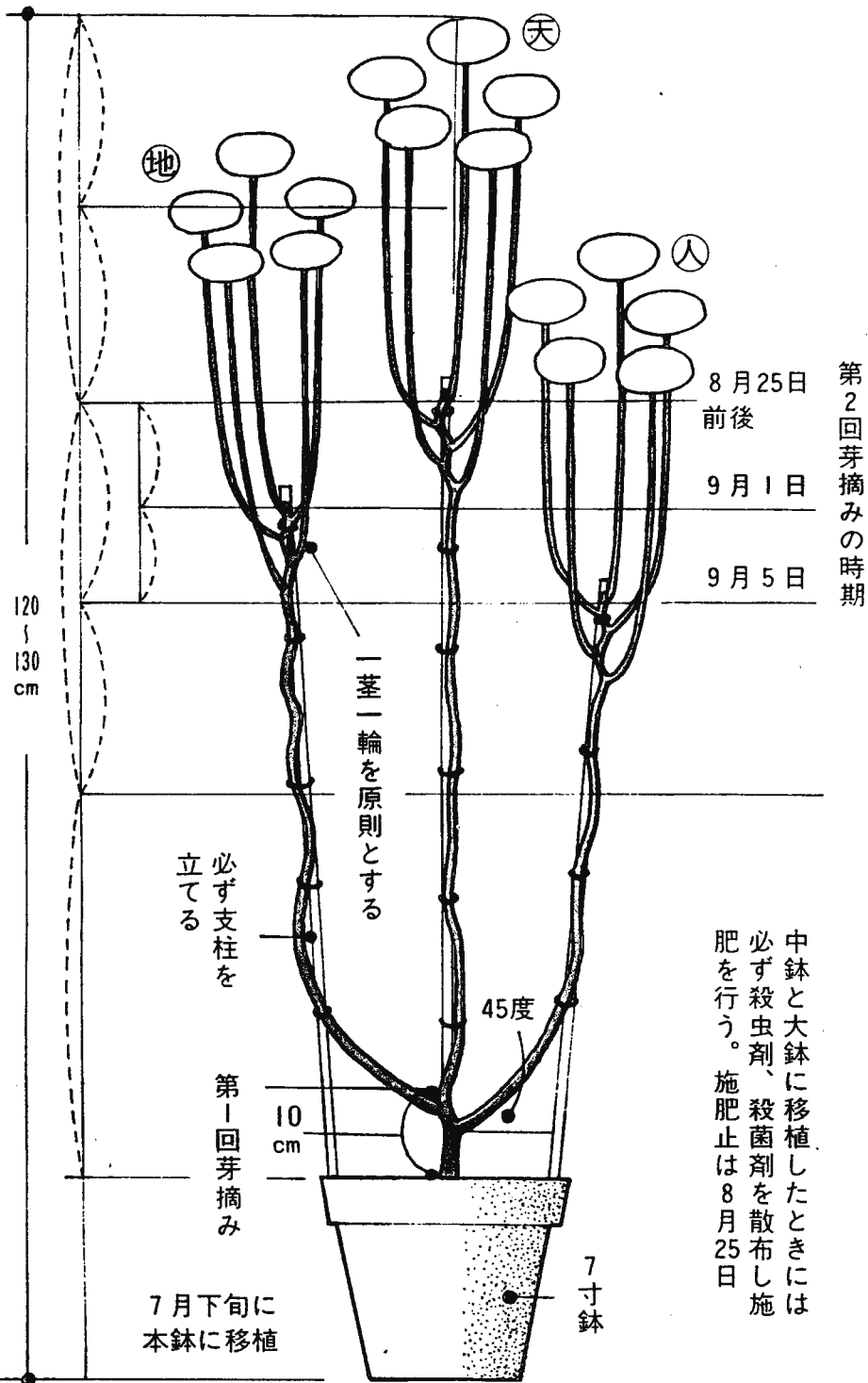
- 一、花、茎、葉共にやや小型で中輪型に属する。
 - 二、花弁は燃れ管状に見える平弁で、咲き始めは独特の渦巻状になるものが多い。
 - 三、弁先が、裂ける、巻き込む、何本かに分岐する、それらが混じり合うなど、変化に富む咲き方をする。
 - 四、花弁は長く、大部分の花が縮れて垂れ下がり、如何にも繊細な感じが強い。
 - 五、色彩は鮮明で、白、黄、樺、桃、紅などの無地のもの他に咲き分け、ぼかしなど変化が多い。
 - 六、葉は深切れで、小さい切れ込みの多いものがある。
 - 七、花期は秋菊としては遅咲きで十一月上旬～中旬。
花型を大別すると
- 一、花弁の垂下の著しい垂れ咲き。
 - 二、割合に垂れ方の少ない平咲き。
 - 三、花弁の先端が巻き込む玉巻き咲き。
 - 四、弁先の大部分が裂けた平弁の裂け弁咲き。
 - 五、芯が露出の著しい露芯咲き。

以上のように大別されますが、全般的に見て、どの花型でも本種の特徴である垂下性が現れ、開花の進行につれて独自の風情を表現し、

色彩的にも一段と美しくなり大別するのが難しくなると思われます。

● 中輪型松阪菊の仕立て方

仕立て方～天，地，人づくり(中幹種)



第2回芽摘みの時期

8月25日 前後
9月1日
9月5日

中鉢と大鉢に移植したときには必ず殺虫剤、殺菌剤を散布し施肥を行う。施肥止は8月25日

松阪菊の品種について

昭和六十三年十一月現在

松阪三珍花保存会所有

番号	中輪品種	花	弁	芯	茎	その他
一	初霜	純白色で弁先巻き込みの裂け弁咲きで弁数多く、縮れて開花して行く姿がとても素晴らしい花。	純白色で弁先巻き込みと裂け弁の混じりとなる。	被芯型	被芯型	古花
二	白糸の滝	白色で特に弁細長くて数多く、裂け弁の垂れ咲きとなる。とても繊細で美しい花。	純白色で弁先巻き込みと裂け弁の混じりとなる。	被芯型	被芯型	古花
三	友白髪	純白色で弁先巻き込みの裂け弁混じりの平咲きとなる。全体の姿が整いにくい品種。	純白色で弁先巻き込みと裂け弁の混じりとなる。	被芯型	被芯型	古花
四	残雪	純白色で弁先巻き込みの裂け弁混じりの平咲きとなる。全体の姿が整いにくい品種。	純白色で弁先巻き込みと裂け弁の混じりとなる。	被芯型	被芯型	古花
五	白翁	白色で中心渦巻き状で、裂け弁混じりの燃れ平弁で垂れ咲きとなる可愛い花。	純白色で弁先巻き込みで、開花につれて燃れ平弁の垂れ咲きとなる。弁数多く縮れて垂れ下がる姿が優雅で美しい。	被芯型	被芯型	古花
六	白鷺	雪白色で弁やや太く、外側の弁は長く燃れるが、あまり垂れ下がる平咲きとなる。比較的作りやすい。	白色で弁短く、燃れ弁と裂け弁の混じり咲きとなる。全体に太くて丈夫で作りやすいが、開花につれて芯が大きく露出する。	被芯型	被芯型	古花
七	雪山	白色で弁短く、燃れ弁と裂け弁の混じり咲きとなる。全体に太くて丈夫で作りやすいが、開花につれて芯が大きく露出する。	白色で弁短く、燃れ弁と裂け弁の混じり咲きとなる。全体に太くて丈夫で作りやすいが、開花につれて芯が大きく露出する。	被芯型	被芯型	古花
八	白滝	白色で弁やや太めの燃れ平咲きで、外側の弁は長く垂れ下がる。清楚な雰囲気を持つ花。	白色で中心が緑色で、珍しい色彩の花で弁は燃れ平弁で垂れ咲きとなる。	被芯型	被芯型	古花
九	高砂	白色で中心が緑色で、珍しい色彩の花で弁は燃れ平弁で垂れ咲きとなる。	白色で中心が緑色で、珍しい色彩の花で弁は燃れ平弁で垂れ咲きとなる。	被芯型	被芯型	古花
一〇	白滝の流	白色で中心が緑色で、珍しい色彩の花で弁は燃れ平弁で垂れ咲きとなる。	白色で中心が緑色で、珍しい色彩の花で弁は燃れ平弁で垂れ咲きとなる。	被芯型	被芯型	古花
一一	白鳥	黄を帯びた白色で、弁やや太く燃れ平弁の平咲きとなる。全体の姿が整いやすい品種で、ゆつたりと羽を広げた白鳥の姿が浮かぶ。	黄を帯びた白色で、弁やや太く燃れ平弁の平咲きとなる。比較的作りやすい品種。	被芯型	被芯型	古花
一二	雪の朝	黄を帯びた白色で、弁やや太く燃れ平弁の平咲きとなる。比較的作りやすい品種。	黄を帯びた白色で、弁やや太く燃れ平弁の平咲きとなる。比較的作りやすい品種。	被芯型	被芯型	古花
一三	淡雪	黄を帯びた白色で、弁細長くて数多く、裂け弁混じりの縮れ咲きとなる。特に繊細であてやかな花。	白色に極く薄い黄が混じり、まれに紅筋が入る。弁特に長く裂け弁混じりの垂れ咲きとなる。弁の揺れ動く姿が獅子舞を連想させる。	被芯型	被芯型	古花
一四	連獅子	白色に極く薄い黄が混じり、まれに紅筋が入る。弁特に長く裂け弁混じりの垂れ咲きとなる。弁の揺れ動く姿が獅子舞を連想させる。	白色に極く薄い黄が混じり、まれに紅筋が入る。弁特に長く裂け弁混じりの垂れ咲きとなる。弁の揺れ動く姿が獅子舞を連想させる。	被芯型	被芯型	古花

番号	系 色 桃				系 色 樺				系 色 黄				中輪品種		
一五	乱	玉	寿	姫	夕	浜	日	阿	醉	桃	佳人	舞	春	醉	二八
	れ	章	宝	光	映	千	の	漕	妃	山	の	姿	雨	の	
	糸					鳥	出	浦	妃		笑			姫	
	花														
	弁														
	<p>純黄色で弁細く、特に弁先巻き込みの玉巻き咲きで、開花につれて全体が縮れて垂れ下がる。松阪菊の特徴を最もよく備えた花。</p> <p>山吹色で弁は燃れ平弁で、開花が進むにつれて次第に長く伸びて、裂け弁多く垂れ咲きとなる。全体の感じがやさしい花。</p> <p>純黄色で弁特に細長く、弁先巻き込みの平咲きとなる。おおらかな感じで開花すると花火のようになる。</p> <p>黄色で裏に少し紅が入る。弁細長く裂け弁混じりの平咲きとなる。おおらかなで鮮明な感じの花。</p> <p>樺色で中心に山吹色が混じり、弁太く燃れ平弁の平咲きとなる。色彩鮮明で美しいが咲ききつてしまうとと嗟峨菊に似る。</p> <p>山吹色で裏が少し樺色を帯びる。弁太く平弁の平咲きとなる。全体が整いやすい品種。</p> <p>樺色に山吹色が混じる。咲きかけの渦巻状がはつきり出て美しく、弁少し短く弁先巻き込みの玉巻き咲きとなる。</p> <p>淡紅色に白が混じる。弁長く数多く、燃れ弁と裂け弁混じりの垂れ咲きとなる。ほんのりと顔を赤らめた美女の姿を思わせる。</p> <p>淡紅色に白が混じり、弁細長く裂け弁混じりの垂れ咲きとなる。風に揺れて紅と白の色彩が混じって美しい。</p> <p>淡い桜色に白が混じる愛らしい色合いで、弁長く燃れ平弁で垂れ咲きとなる。全体におおらかな雰囲気の花。</p> <p>薄紅色で白が程よく混じり、弁細く燃れ弁の縮れ咲きとなる。開花して行く姿が艶やかな舞を連想させる優雅な花。</p> <p>淡い紅色に紅筋が入り弁先に白が混じる。弁少し太く燃れ弁の少し垂れ咲きとなる。色彩が鮮やかで変化に富んだ花。</p> <p>白色に淡い赤藤色が混じり、弁特に多く裂け弁混じりの垂れ咲きとなる。繊細な感じであるが開花につれて花の姿が乱れる。</p>														
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被芯型 ・ 露芯型 ・ 露芯型 ・ 露芯型 ・ 露芯型 ・ 露芯型 ・ 露芯型 ・ 露芯型 ・ 露芯型 ・ 露芯型 ・ 露芯型 ・ 露芯型 ・ 露芯型 ・ 露芯型 ・ 露芯型 														
	<p>早咲き</p> <p>早咲き</p> <p>早咲き</p> <p>遅咲き</p> <p>遅咲き</p> <p>遅咲き</p> <p>遅咲き</p> <p>遅咲き</p> <p>遅咲き</p> <p>遅咲き</p> <p>遅咲き</p> <p>遅咲き</p> <p>遅咲き</p> <p>遅咲き</p>														
	<p>古花</p> <p>古花</p> <p>古花</p> <p>古花</p> <p>古花</p> <p>古花</p> <p>古花</p> <p>古花</p> <p>古花</p> <p>古花</p> <p>古花</p> <p>古花</p> <p>古花</p> <p>古花</p>														
	<p>その他</p>														

番号	中輪品種													
二九	陽春	猩々	花霞	初桜	初姿	暁紅	紅王	花守	紅鶴	紅珊瑚	紅葉	幾代の春	源平咲	御城の錦
三〇	美しい紅色に白が混じる。弁長く裂け弁混じりの縮れ咲きとなる。表の紅に裏の白が程よく混じり風に揺れ動く姿が美しい。	咲きとなる。柔らかい雰囲気の花。	淡い紅色で弁先に白が少し混じる。弁先巻き込みの玉巻き咲きで、開花が進むにつれて燃れ平弁の垂れ咲きとなる。	紅色で弁先及び中心に白が混じる。弁は燃れ平弁で開花につれて長く垂れ下がる。春の淡い雰囲気を感じられる花。	紅色で中心に向って白となる。咲きかけは渦巻状で、開花につれて燃れ平弁の平咲きとなる。	朱紅色で裏が薄黄色となる。弁やや太く咲きかけは渦巻状で、開花につれて燃れ平弁と裂け弁混じりの平咲きとなる。	濃い紅色で、弁は燃れ平弁で表の紅に裏の白が燃れて混じり合い、独特の色合いとなり、開花が進むにつれてやや垂れ咲きとなる。	濃い紅色で弁先に白が混じる。弁は長く少ないが咲きかけは中心巻き込みで、開花につれて燃れ平弁の平咲きとなり嵯峨菊に似る。	紅色で弁は燃れ平弁と裂け弁混じりで、咲きかけは中心巻き込みで、開花につれて平咲きとなり嵯峨菊に似る。	紅色で弁数少なく、燃れ平弁と裂け弁混じりで少し垂れ咲きとなる。	濃い紅紫色で弁先白くて細く、燃れ平弁に裂け弁混じりの平咲きとなる。中心の渦巻きがはっきりしていて、比較的丈夫で作りやすい。	濃い紅色で、弁は燃れ平弁で中心の渦巻きが玉巻きになって盛り上がり、開花につれて外弁が燃れて垂れ下がる珍しい花。	花の一つ一つが紅、白、紅白の三種の咲き分けとなる。弁はやや太く短い中心渦巻状となる。特に珍しく貴重な品種として好まれる。	現在検討中
三二	被芯型	被芯型	被芯型	被芯型	被芯型	被芯型	被芯型	露芯型	露芯型	露芯型	露芯型	露芯型	露芯型	露芯型
三三	被芯型	被芯型	被芯型	被芯型	被芯型	被芯型	被芯型	露芯型	露芯型	露芯型	露芯型	露芯型	露芯型	露芯型
三四	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花
三五	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花
三六	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花
三七	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花
三八	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花
三九	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花
四〇	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花
四一	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花
四二	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花	古花
番号	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他

番号	大輪	品種	花	弁	露芯型	その他
四六	美	香	桜色で弁は細管の弁先玉無し の伸び切り弁となる。	咲きかけは渦巻状で美しく、 日毎に一 本一本ほぐれるように咲いて行く姿は、 他の菊には見られない松阪大輪菊独特 の味わいのある、貴重な存在の花。	・露芯型 ・茎	古花
四七	糸	錦	金色で弁特に細い針管の玉無 しの伸び切り弁となる。		・露芯型	古花
四八	松阪紅宴		紅色で弁は細管の弁先玉が少し出るが、 伸び切り弁となる。		・露芯型	会員の新花
四九	松阪茜		茜色で弁は細管の玉無しの伸び切り弁となる。 茎が特に短いのが難点である。		・露芯型 ・茎短い	〃
五〇	松阪糸紫		紅紫色で美しく、特に細管の弁先巻き込みとなる。 茎が伸び過ぎるのと、 咲ききると中心に花が残って姿が乱れる。		・無芯型 ・茎長い	〃

番号	中輪	品種	花	弁	露芯型	その他
四三	御城の桜		現在検討中		・露芯型	会員の新花
四四	御城の愛		〃		・露芯型	〃
四五	御城の白壁		〃		・露芯型	〃

松阪三珍花保存会のあゆみ

●松阪三珍花との出会い

昭和四十四年正月、松阪市立野町の岡村金蔵先生から頂いた年賀状に、中学校長退職後は松阪三珍花を研究・育成していると記されてありました。松阪にそんな立派な花がある事を初めて知った私は、昭和四十二年発刊の「三重県の文化財」をはじめ、松阪市社会教育課にある資料や図書館の書籍などを色々閲覧しました。そうして、松阪三珍花が徳川時代から受け継がれて来た松阪発祥の銘花である事を、改めて認識する事が出来ました。

●公民館講座の開設

昭和四十五年、私は当時松阪市立公民館に在職中でしたので、公民館講座に「松阪三珍花・園芸講座」を開講する事を提案しました。話は順調に進んで、講師を撫子Ⅱ岡村金蔵氏、花菖蒲Ⅱ青木清次郎氏、菊Ⅱ中井喜平氏に依頼して開講される事になりました。（募集人員四十名）

同年、三重県は花菖蒲を数ある銘花の中から県花に決定しました。花菖蒲を県民の象徴とされたのは、その由緒ある伝統に基づくものと思われれます。

また同年、松阪市は青木清次郎氏宅の松阪花菖蒲を市の天然記念物に指定して頌徳碑を建立し、松阪市長・吉田逸郎の名で碑文にその功績を讃えています。

このように県や市が、時を同じくするように松阪花菖蒲の伝統に着目し、その価値を高く評価して下さった事は、あながち偶然とは

言い切れないものがあると、私には思われてなりません。

●公民館文化グループ発足

翌四十六年、講座に出席された方々の要望によって、文化グループが新発足する事になりました。早速三重大学教授・農学博士富野耕治先生の講演会を開催すると同時にグループの名称を「松阪三珍花の会」として会則を定め、初代会長に石田小春氏、講師に岡村金蔵氏（数年後に逝去のため後任に池部和夫氏に依頼）、篠田晴二郎氏を迎えて本格的な活動に入りました。

そして三花の苗のうち、撫子と菊は、三重大学、明野高校及び岡村金蔵氏から譲り受けました。花菖蒲は青木清次郎氏から石田会長に品種保存の依頼も兼ねて二十数品種を譲り受け、更に新花を清水武夫氏から譲り受けました。

翌四十七年三月九日、青木清次郎氏は闘病生活の効も無く、一生を懸けて守り続けて来た花菖蒲の将来を案じ乍ら七十四才にて逝去され、その後は嗣子の良平氏が亡父の遺志を継いで現在も立派に保存育成されております。

その後「松阪三珍花の会」は、市教育委員会より松阪三珍花保存の指定を受け、会の名称も「松阪三珍花保存会」と改めて茲に名実共に現在の保存会が誕生いたしました。

●松阪市史に記載

松阪三珍花の由来や特性については、昭和五十二年発刊 松阪市史第一巻 自然篇、昭和五十四年発刊 松阪市史第六巻 文化財篇に詳しく記載されております。

●緑化活動

「松阪三珍花保存会」は緑化活動や展示会にも積極的に参加して来ました。

昭和五十三年、市制四十五周年・松阪開府三百九十年記念行事の一環として、花菖蒲苑の造成が計画されました。保存会員をはじめ市民の方々から花菖蒲の苗約三千株のご寄贈を頂いて、中部台運動公園にポランテアに依る植込み作業が行われ、見事な花菖蒲苑がお目見得しました。毎年六月には色とりどりの花が咲き揃って訪れる人々の目を楽しませてくれています。

昭和五十八年、市制五十周年には、市民の希望者に撫子の種子や花菖蒲、菊の苗などの配布を行いました。

昭和六十二年「名古屋城菊花大会四十周年記念」全国有名菊特別花壇展に二十四鉢、

昭和六十三年「全国都市緑化なごやフェア」全国有名菊花壇展に三十二鉢をそれぞれ名城公園へ出品しました。

平成五年、翌年開催のまつり博三重94に出品の為、三重県農業技術センターへ撫子と菊の苗を提供して、まつり博の期間中「伊勢の伝統ゾーン」のコーナーに展示されました。

●残存品種の蒐集に努める

昭和五十六年四月、十年間に亘って会員の技術指導と苗の配布に努力して頂いた石田会長が病氣の為引退されましたので、その後任選びに力を尽くしたのですが、なかなか適当な方が無く当惑しておりますうち、私に…との御指名を受けました。病弱でもあり到底その器でもありませんので再三お断りしたのですが、結局二代目会長

をお引受けする事になりました。それを契機に前会長から受け継いだ品種を基に残存品種の蒐集に努めることに力を注ぎ、松阪をはじめ津・一志郡・安芸郡・大阪など各方面の愛好家から数多くの品種を譲り受ける事が出来ました。その結果、現在松阪花菖蒲は古花五十種、新花百種。松阪菊は古花・新花を合わせて五十種を保存出来るようになりました。

松阪撫子は株の保存が難しいので、毎年優秀な品種を選別して慎重に種子を取り、保存を続けています。現在では花色も多種類に及び、花卉も長いものは十五種から二十種も垂れ下がるものもあって、会員全体が優秀な品種を確保することが出来る程になりました。

●松阪発祥の銘花として全国的に脚光を浴びる

肥後・江戸・嵯峨など古くから存在する保存会に一步遅れて誕生した「松阪三珍花保存会」ですが、会員の方々の二十数年の努力によつて、テレビや市勢要覧・NHK趣味の園芸・家庭画報などで紹介される機会も多くなりました。それに伴い、全国各地からの問い合わせも相次いで、展示会には県内は勿論、愛知・静岡・神奈川・大阪・兵庫・宮崎などの各府県からも鑑賞に訪れて下さる方々があつて、三珍花が松阪発祥の銘花であるという位置付けを、はつきりする事が出来ました。

●今後の課題

長い歲月、門外不出として特定の人から人へ、コツコツと古花の品種保存がされて来た事は、松阪にとつて本当に幸いだつたと思えます。今後は会として保存育成して行くだけでなく、市民の方々

こぞつて三珍花を愛し慈しみ育てて下さつて、松阪の誇りの一つにして頂きたいものと願ひ乍ら、これからも尚一層の努力を続けて行きたいと思ひます。

●展示会

「松阪三珍花保存会」では、毎年展示会を行ない、好評を頂いております。

松阪撫子 五月下旬

松阪花菖蒲 六月中旬

松阪菊 十一月上旬

展示会はいずれも、松阪市社会教育センター前広場（松阪駅より徒歩十五分）にて、各百五十鉢ほどを展示しています。

●あしがき

平成三年四月、十年間務めさせて頂きました会長を引退いたしましたので、三代目会長を新良弘氏にお願いし、現在は顧問としてお手伝いさせて頂いております。

尚、松阪三珍花を保存して行く事は仲々大変な事ですが、松阪高校の坂部先生のご厚意によって、松阪高校で保存育成して頂く事になりましたので、平成五年から六年にかけて各苗を分譲致しました。



昭和58年1月 左から石田前会長・篠田先生・池部先生を交じて親睦会



昭和60年1月 石田前会長に感謝状と記念品を贈る



昭和62年11月 富野先生（中央）を迎えて名城公園にて

西曆	年号	松阪菊 (伊勢菊)	松阪花菖蒲 (伊勢花菖蒲)	松阪撫子 (伊勢撫子)
一四一二	応永十九年	伊勢の国司・北畠光雅が京都嵯峨村、亀山御殿に居られた南朝の後胤、小倉王から種を拝領して伊勢の国に持ち帰り培養作出		
一六七三	延宝一年		「花壇細目」花菖蒲の色分けと栽培法挙げる	
一七五五	宝暦五年	菊経による伊勢菊の名前初めて現れる	吉井定五郎、殿町に生まれる (徳川紀州藩士となる)	継松栄治、殿町に生まれる (徳川紀州藩士となる)
一七七六	安永五年		永年、苦心培養の結果、百余種の品種を作出	後に撫子の改良育成をする
一八〇三	享和三年		野口才吉、殿町に生まれる	岩崎灌園「本草図譜」に記載 光格天皇が非常に愛好され後に宝鏡寺に御下賜
一八二九	文政二年	木下藤八(殿町に住む)		継松静
一八三〇	天保一年	大輪菊を実生により幾多の新品種を作出		継松栄治から引継ぎ
一八四五	弘化二年	木下藤八、中輪菊も実生で新品種作出		野口才吉 品種改良に努める
一八五九	安政六年		吉井定五郎歿(八十三才) 嗣子吉之亟引き継ぐ 更にその後野口才吉に譲る	
一八六〇	万延一年		井関謙次郎、藤堂藩士の家に生まれる	

一八六三	文久三年		後に津の栽培家となる	長谷醉華「撫子培養手引草」に 記載
一八六六	慶応二年			継松榮治歿 中瀬常吉松阪に生まれる
一八六七	〃三年	藤堂城主の庇護のもとに観菊の 宴を催される 以後毎年開花期に献上		
一八七六	明治九年	長林堅三郎、新座町に生まれる 後に三珍花の栽培家となる	上に同じ	上に同じ
一八八五	〃一八年	脇田藤助（中町に住む） 木下藤八から譲り受けて栽培	服部栄次郎、松阪に生まれる 後に松阪系の改良、栽培を図る	
一八九三	〃二六年	三月の松阪大火の時、脇田所有 の大部分焼失		長林堅三郎 継松静、野口才吉 中瀬 常吉 から引継ぐ
一九〇七	〃四〇年		「改正伊勢玉蟬花名鑑」に百五 十五品種名を記す 長林堅三郎 新座町 廣田 稻雄 津市 竹島 定吉 〃	
一九一〇	明治四三年		吉川万吉（津の井関謙次郎の甥） 栽培を始め改良を図る 野口才吉歿 乾達二（久保町に住む）古文書 と共に全部引継ぐ	

西曆	年号	松阪菊 (伊勢菊)	松阪花菖蒲 (伊勢花菖蒲)	松阪撫子 (伊勢撫子)
一九二九	大正八年	官内省、松阪へ視察 前川吉次郎 日野町 宇野 常吉 津市 坪内爲三郎 〃 大輪菊十数品種栽培を確認	乾達二歿 青木清次郎 (久保町) 引継ぐ	藪重雄 (京都に住む) 宝鏡寺より譲り受け、努力の結果多くの品種作出
一九二二	〃 一一年	丹羽鼎三 (三重高農) 大正〆昭和にかけて実生栽培から優良品種多数作出	岡村金蔵 (立野町に住む) 長林堅三郎から分譲され栽培を始める	岡村金蔵 長林堅三郎から分譲され栽培を始める
一九二八	昭和三年	十一月、天皇・皇后両陛下伊勢神宮御参拝の砌、丹羽鼎三、本種を奉納。 翌年四十五種宮中へ献上 毎年新宿御苑にて展示	長林堅三郎歿 松阪の栽培家に渡る 井関謙次郎歿 吉川万吉歿 百余の品種残す	長林堅三郎歿 服部栄次郎が引継ぐ
一九三七	〃 一二年	長林堅三郎歿	長林堅三郎歿	長林堅三郎歿
一九四〇	〃 一五年	岡村金蔵 (立野町) などが 中井喜平 (殿町) 引継ぐ		
一九四一	〃 一六年			

一九四七	〃	二二年		津村兼三郎（本町） 服部栄次郎 ）引継ぐ	中瀬常吉歿
一九五一	〃	二六年	三重大学に於て各地から収集 富野耕治が引継ぎ品種の育成に 努め新品種作出 後に明野高校・篠田晴二郎に分 譲される	更に三重大学の 富野耕治が引継ぎ多くの新品種 作出	富野耕治 服部栄次郎から分譲される
一九五二	〃	二七年	中輪菊を伊勢菊として県の天然 記念物に指定	伊勢花菖蒲として県の天然記念 物に指定	伊勢撫子として県の天然記念物 に指定
一九七〇	〃	四五年	松阪市立公民館に於て松阪三珍 花講座開講	上に同じ 県は花菖蒲を県花に決定 松阪市は青木清次郎宅の松阪花 菖蒲を天然記念物に指定、頌徳 碑を建立 その二年後に青木清次郎歿 嗣子の良平引継ぐ	上に同じ
一九七一	〃	四六年	松阪市立公民館グループ 「松阪三珍花保存会」誕生で、松阪三珍花の保存育成に努め現在に至る		
一九七七	〃	五二年	松阪市史第一巻・自然篇に、松阪三珍花の由来や特性について記載		
一九七九	〃	五四年	〃 第六巻・文化財篇に、 〃 〃		



奖励
賞